

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第七小学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を文章の中で使わせること。 <p><思考・判断・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを相手に伝えるように、分かりやすく順序立てて話すことができるようにすること。 自分の考えを、事柄の順序に沿って書かせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 日記の課題や授業の振り返りなど、書く機会を多く設ける。その都度、自分の書いた文を見直し、修正するよう声をかける。 どのような順序で話せば良いか例を示し、それに沿って考えさせる。 「はじめ・中・終わり」に分けた構成メモを作った上で、文章を書くようにさせる。 	
算数	<p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 加法減法の筆算、繰り上がり繰り下がり計算を正確に行うこと。 <p><思考・表現・判断></p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの解決法、考え方を、絵や図、式、表などを使って表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり繰り下がりの基本計算の復習を随時取り入れ、基礎的計算力を身に付ける。 具体物も使いながら問題場面を確実に把握できるようにし、絵や図、式、表などを使って表現する活動を多く取り入れる。 	
生活	<p><思考・表現・判断></p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を通して思考し、表現によって活動や体験を振り返り、思考を深めること。 身近な場所や人々と深く関わることにより、気付きの質を高めること。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科と関連付けたり学校図書館を活用したりして、学習活動を豊かにし、感じたこと・考えたことを表現する技術と習慣を身に付けさせる。 関わりを継続して行うことで、知的な気付きを深めるとともに、関わってきた対象や自分のよさにも気付けるようにする。 	
音楽	<p><思考・表現・判断></p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞や曲想に合った身体表現の工夫をすること。 <p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカで簡単な曲を演奏できるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌う姿勢、間奏などで待つ姿勢など、常時活動の規律を意識させ、曲を聴いてその曲に合った身体表現をする活動を積極的に取り入れる。 音の高低をとらえるのに難しい時があり、すこしずつハンドサインなどを用いて視覚的にとらえられるようにする。 	
図画工作	<p><思考・表現・判断></p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいを理解して表現させること。 色や形の特徴を理解し、こだわりをもって表現させること。 自分のイメージを基に表現させること。 <p><主体的に学習に取り組む態度></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品に向き合い、さらに作品をよくするためにできることはないか、粘り強く表現に取り組ませること。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいを理解するために、授業の最初に必ず守ることを書いて、子供の表現がねらいから逸れないようにする。 作品の完成度を高めるために、制作途中に友達と互いの改善点を探す機会を設ける。 落ち着いて表現に取り組むために、一人で静かに制作する時間を設ける。 ねらいに沿って表現できている作品を取り上げて褒め、子供たちがねらいを確認する機会を設ける。 色や形のよさにどのように気付けばいいか理解するために、よく書けている鑑賞カードを紹介する。 	
体育	<p><技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階相応の技術を身に付けさせること。 運動に対する意欲を高めさせること。 ボールを使った運動に対する抵抗感を和らげること。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じパターン授業展開を増やし、活動の時間をできる限り多くとるようにする。 技術を向上させることで、意欲も高めさせる。 ボールなどの用具に触れる機会を多くとり、無理のないよう少しずつ向上できるように、スモールステップの目標設定をする。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを詳しく説明させること。 自分と異なる意見も受け入れ、ねらいとする道徳的価値について考えを深めさせること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜそう思ったのか。」を適宜問いかけ、そうした考えに至った過程についても言語化させる。 役割演技や動作化なども行いながら、教材文を自分の事として捉えさせる。その際、葛藤する登場人物の思いを想像させる。 	